

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

【学校教育目標】共に創り 共に歩み 共に輝く
 ○基礎・基本を大切に、自ら課題を解決しながら、共に学び合う力を育てます。【知】
 ○他者との豊かな関わり合いの中で、互いのよさや違いを認め合い、共に高め合える姿勢を育てます。【徳】
 ○健康や安全の大切さに気づき、自分や他者の生命を尊ぶことのできる、心も体も健やかな子どもを育てます。【体】
 ○地域の人々や自然とのかかわりを通して生き方を学び、自らできることを考えて実践できる力を育てます。【公】
 ○私たちの「まち」綱島を愛し、綱島の自然や文化の素晴らしさを受け継ごうとする態度を育てます。【開】

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

<p>【綱島小学校】 感謝の気持ちを持ち、自他を思いやり認め合う子 — 聴く力、伝える力 —</p> <p>【新田中ブロック】 自分づくりに関する力</p>	<p>具体化した資質・能力</p> <p>相手の立場や気持ちを考える力 自分らしさを大切にできる姿勢</p> <p>思いや考えを聴く力・伝える力</p>
--	--

中期取組目標

○子ども一人ひとりが思いや考えを持ち、共に学び合いながら、主体的・対話的に学びが深まるような教育活動を推進します。
 ・1年目は、子どもたち全員が考えを持ち、互いに学び合おうとする姿を目指します。
 ・2年目は、子どもの表現を大切にしながら共に学び合い、子どもたち全員の学び合いが高まるように育てます。
 ・3年目は、共に学び合うことで、互いに考えを深め合えることができるようになります。
 ○綱島のまちの「人」「もの」「場所」を生かし、「感謝」「思いやり」「認め合い」「聴く、伝える」といった身につけた力を明確にし、綱島を愛する「綱島魂」の心を育てます。
 ・3年間を通して、一人ひとりが自己有用感を持ち、楽しく学校生活が送れるようにします
 ・「感謝」「思いやり」「認め合い」「聴く、伝える」という資質・能力育成をめざした授業改善、学級経営、学年経営に取り組みます。
 ・学校行事を充実することで、綱島小の一員である意識を高め、「チーム綱島」として力を発揮できるようにします。
 ・通級指導教室、一般学級・個別支援学級担当との連携、情報交換、研修等を通じ、チーム力向上を図ります。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①どの教科でも「自分の考えや思いを伝え合い、学びを深めるよさを実感できる姿」を目指して指導を行い、話し合いや学び合いから学びが深められるようにする。 ②授業を通して身に付けさせたい資質・能力を見据え、より具体的な子どもたちの姿を明確にもった授業創りをしていく。
担当	研究推進委員会

学力向上に関わる本校の状況	今年度の目標
塾に通っている児童も多く、学年が上がるとつれて、学力差が大きくなっていく傾向がある。学力が高いにも関わらず、学習意欲が低い傾向も見られる。単に知識や技能を身に付ける学習よりも、自らの課題を見つけ、探求したり友達と共同して解決をしたりする授業展開を通じ、友達と考えや意見を伝え合うことのよさを感じている児童も見受けられる。	全員が考えや思いを伝え合い、学びを深めるよさを実感できる姿を目指して
	目標を実現するための具体的行動プラン
上半期	①校内重点研究会や学年研究会等を中心に共同した教材研究を行い、「学びを深める姿」について共通理解をもって、授業を進めることができるようにする。 ②子ども同士の協同的な学びができる場面を大切に、自ら進んで考えを伝えたいような授業創りに取り組む。 ③児童一人ひとりが安心して自分の考えを伝えられるような学級風土づくりに努めるとともに、実態把握を確実にし、適切な支援ができるようにする。
下半期	①上半期の活動内容や児童の実態を振り返り、各学年に応じて教材研究や学習展開の工夫を考え、実践していく。 ②児童一人ひとりが自信をもって自分の考えを持ち、意欲的に学習に取り組めるような課題の追及や教材研究に努める。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①人の役に立った、人から感謝された、人から認められたという自己有用感を高める経験を積み重ね、自己肯定感を育む②豊かな心の育成を目指して、道徳科を要として学校の教育活動を通じて行う道徳教育を推進する。
担当	人権・児童指導委員会

豊かな心に関わる本校の状況	今年度の目標
(1)児童の実態 家庭環境・学習環境、共に恵まれた児童が多く、高い学力も持っているものの、生活の中でそれを活用する意識が低い。学習はできるが、自分から進んで物事に取り組めない状況にある児童が多い。また、特別な支援を要する児童も急増しており、生活場面において、コミュニケーション不足によるトラブルが多くみられる。 (2)昨年度の取り組み だれもが安心できる学校を目指し、「ふわふわ言葉」があふれる学校にするため 運営委員会を中心に各クラスで取り組み全校で共有した。また、コロナ禍で異学年交流が減ってしまったため、感謝の気持ちやよいところなどを手紙で伝える活動を行った。	一人一人が尊重され互いのよさを認め合う活動の充実
	目標を実現するための具体的行動プラン
上半期	①ペア学年活動、児童会活動、委員会活動、各行事の実行委員及び学年・学級の係、当番活動などを計画的に実施し、それぞれの役割を自覚し、意欲的に取り組めるようにする。 ②道徳教育のよりよい在り方について、各学年の各内容項目について児童の実態を把握し、指導上の課題を捉え、実態に応じた指導を行う。
下半期	①児童の適正な自己評価を高めるため、教職員が意識して児童の活動を価値づけ子どもが主体的に取り組めるようにする。 ②道徳、人権、特別支援教育などの研修を生かしながら、年間を通して他者理解につながる取り組みを行い、児童のコミュニケーション能力の育成や相互理解を深めていくようにする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①生涯にわたり健やかな体を育てるために必要な資質能力を身に付ける学習を積み重ねる。 ②体力テストの結果をもとにして、綱島小の体力向上目標を明確にし、持続的に実現可能な取組を推進する。
担当	体力づくり委員会

健やかな体に関わる本校の状況	今年度の目標
塾に通っている児童も多く高学年になるにつれて、体を動かす時間が少なくなる傾向がある。学校の休み時間や体育の時間が唯一の運動時間といった児童もいる。一方で地域のクラブ活動に参加したり、土日はいつも試合であったりして疲労した状態で学校生活を送っている児童もいる。体を動かさずいる児童と、そうでない児童との二極化が顕著に表れている。	保健学習や体育学習を基本にして、自己肯定感やチャレンジ精神を高めるとともに、心豊かな人間関係づくりやコミュニケーション能力の充実を図る。
	目標を実現するための具体的行動プラン
上半期	①校内研修や学年研を中心に実技研修を実施し、全職員が共通理解をもって体育科の授業を進めることができるようにする。 ②体力テストの結果をもとにして、綱島小の体力向上目標を明確にする。 ③学習の成果が休み時間や余暇の時間に生かされるような体育学習となるように授業研究を進めていく。
下半期	①上半期の活動内容や児童の実態を振り返り、各学年に応じて体育科授業の工夫を考え、実践していく。 ②休み時間の過ごし方を評価し、全校職員で共通理解を図りながら、より効果的な過ごし方や取り組みを計画、実践していく。 ③学校保健委員会の取り組みと関連させながら、健康や安全についての理解を深め、継続的に取り組んでいく。